

徹底 解説!

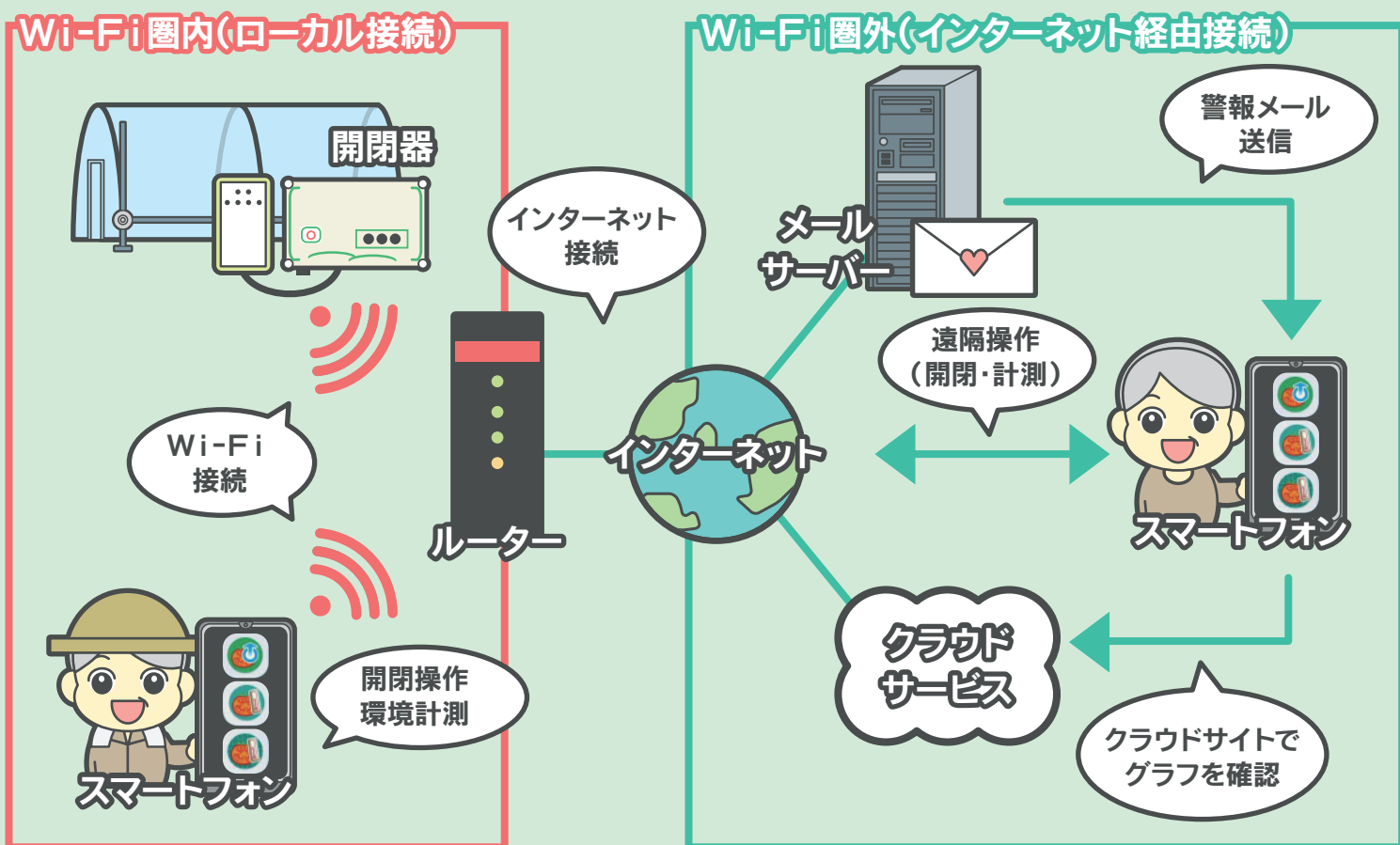
KS-THP1-Mと KS-THP2-Mの違いは?

ティンバー農園の自動開閉器には「高機能版」と呼ばれるKS-THP1-Mと「エントリー版」と呼ばれるKS-THP2-Mの2種類があります。高機能版自動開閉器とエントリー版自動開閉器の大きな違いはインターネット・クラウドに対応しているか、というところです。用途に合わせてお選びいただけます。

KS-THP1-M(高機能版) 接続イメージ

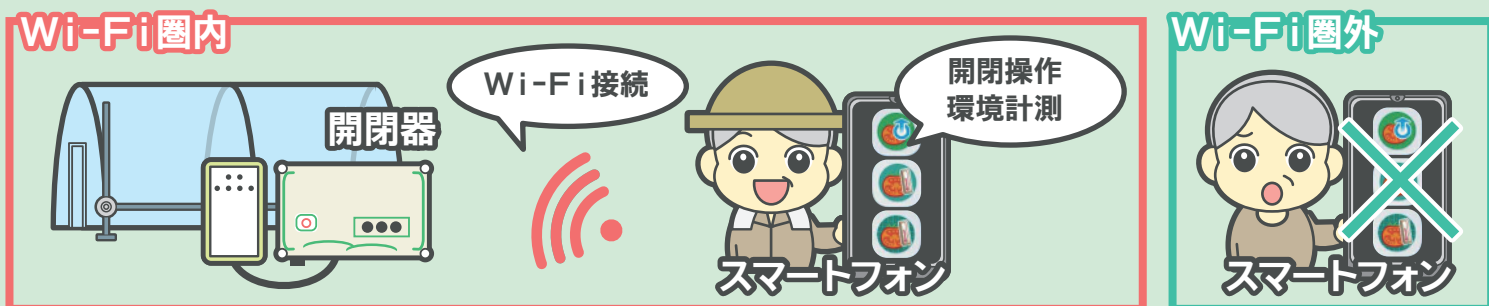
自動開閉器とAndroidスマートフォンをWi-Fiルーターに接続して使用します。

Wi-Fiルーターの電波が届かない場合はインターネット経由接続となり、遠隔での操作が可能となります。



KS-THP2-M(エントリー版) 接続イメージ

自動開閉器そのものがWi-Fiのアクセスポイントとなります。本器のWi-Fi電波が届く範囲での計測値の確認や開閉操作が可能です。(環境により電波有効距離半径10~50m)



徹底 解説!

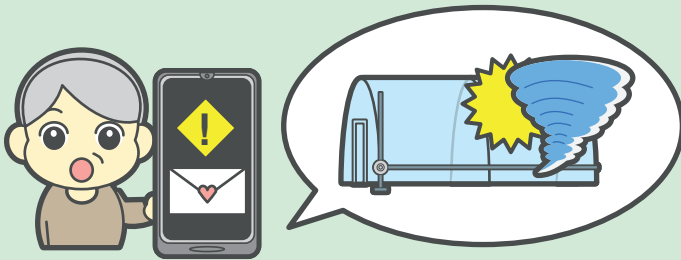


KS-THP1-Mと KS-THP2-Mの違いは?

KS-THP1-M(高機能版)とKS-THP2-M(エントリー版)で違うところ



遠隔操作(環境計測、開閉操作)は高機能版のみの対応となります。



安全停止機能が働いた場合の警報や計測値を配信するメール配信機能は高機能版のみの対応となります。

クラウド サービス



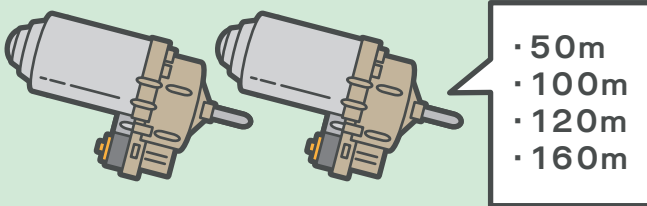
計測値をグラフ表示できるクラウドサービスは高機能版のみの対応となります。

KS-THP1-M 開閉温度設定	
7:00~15:00	25℃
15:00~20:00	30℃
20:00~7:00	20℃

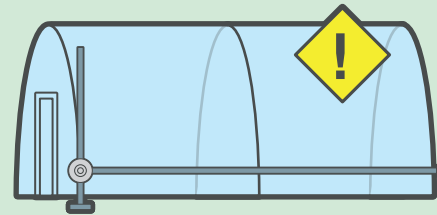
KS-THP2-M 開閉温度設定	
7:00~7:00(24時間)	25℃

高機能版は開閉温度を1時間毎に設定できます。
エントリー版は1日同じ設定温度での開閉となります。

KS-THP1-M(高機能版)とKS-THP2-M(エントリー版)で同じところ



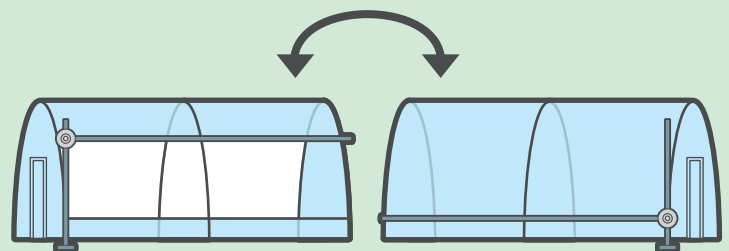
モーターは全ての種類からお選びいただけます。
(50m、100m、120m、160mサイズ対応)



ビニールなどを巻き込み施設に損害がでるような負荷が高まった場合に停止する安全停止機能があります。



センサーは全ての種類からお選びいただけます。
(温度湿度気圧センサーは最大2つ、その他センサーは最大3つまで取り付け可能です)



片側だけ少し開けたまま止めておきたい場合などに、自動制御一時停止機能で状態を一時固定することができます。

徹底 解説!

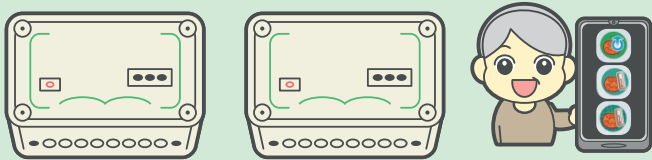


KS-THP1-Mと KS-THP2-Mの違いは?

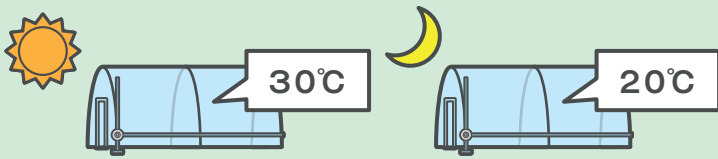
KS-THP1-M(高機能版)のメリット



遠隔操作を使えばどこからでも操作できる

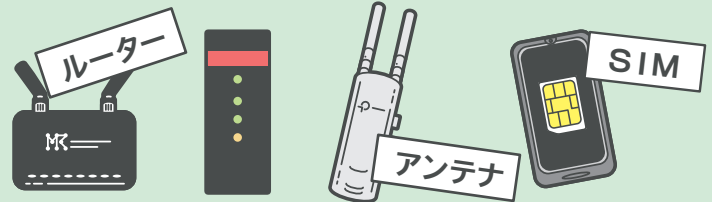


複数台の開閉器を同時に操作できる



時間帯別に開閉温度を設定できる

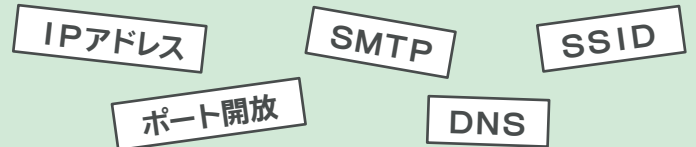
KS-THP1-M(高機能版)のデメリット



必要な通信機材が増える場合がある

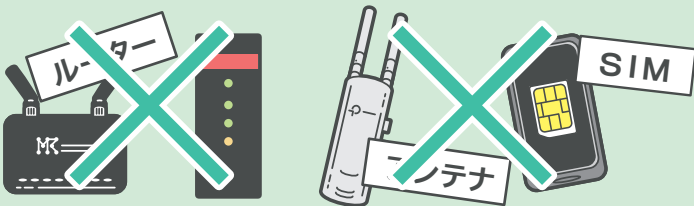


ランニングコスト(通信費)がかかる



ネットワークに関する設定が発生する
(弊社にてサポートいたします!)

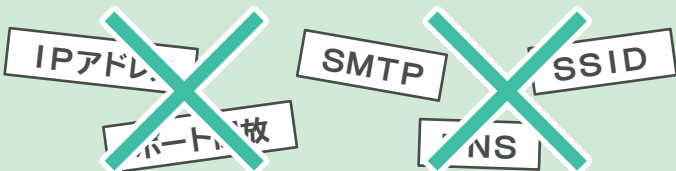
KS-THP2-M(エントリー版)のメリット



追加設備がないので低コストで導入できる



ランニングコスト(通信費)がかからない

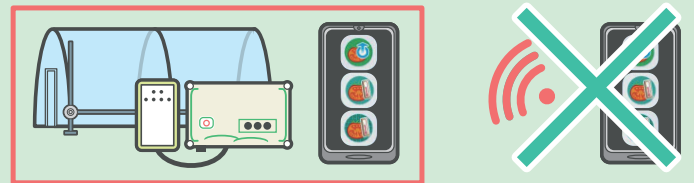


細かい設定が不要で設置後すぐに使える

KS-THP2-M(エントリー版)のデメリット



インターネットを使用する機能が使えない



開閉器のWi-Fiが届く範囲でしか操作できない



複数台の開閉器を操作するときは一台一台
Wi-Fiを繋ぎなおして操作する必要がある